

自然教育園の動物目録の追録と 稀種動物の目撃記録 (4)

久居 宣夫*

Notes on Newly or Rarely Observed
Animal Species in the Institute for
Nature Study (4)

Nobuo Hisai*

はじめに

今回は、1990年1月～12月に新たに生息が確認されたり、目撃された種あるいは前報(久居, 1990)までに記録がもれた種について報告する。稀種については、「動植物目録」(国立科学博物館附属自然教育園, 1984)中で、r：“稀”, または(r): “古い記録はあるが、現在未確認の種”とされている全ての種を対象としたが、これら以外にも最近特に個体数や目撃記録が著しく減少した一部の動物も対象とした。

なお、学名および和名などは上記の目録に準拠した。また、カッコ内の日付は目撃あるいは捕獲した西暦年月日(日付のないものはふつうに見られることを示す)と目撃または捕獲地点と目撃者、捕獲者名を示し、氏名のない場合は筆者の記録によるものを示す。

本報告をまとめるにあたって、種々のご教示と同定をいただいている東洋大学の野正男教授、国立科学博物館の友国雅章氏、日ごろより貴重な記録を提供して下さった日本野鳥の会の守田洋氏をはじめ、情報を提供していただいた方々に感謝の意を表する次第である。

1. 追 録

Arthropoda 節足動物門

Arachnida 蛛形綱

Rhene atrata Karsch カラスハエトリ (真正クモ目 ハエトリグモ科) (1990.9.4 インセクタリアム前)

インセクタリアム前 (図1参照) の草地を徘徊している亜成体の雌を捕獲。

* 国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum

八木沼(1986)は本種の分布を本州・四国・九州とし、千国(1989)はさらに本州での分布を南・西部としている。しかし、神奈川県川崎市での記録もあり(熊田, 1990), このほか埼玉県にも生息することから(大野正男氏のご教示による), 関東付近にも分布しているものと考えられる。

Hasarius adansoni Audouin アダンソンハエトリ (真正クモ目 ハエトリグモ科) (1990.11.7 研究室内)

筆者の使用している窓ぎわの机上を徘徊している雄の成体を捕獲。

本種の分布は前種と同様, 千国(1989)は本州(西部)・四国・九州・南西諸島としているが, 八木沼(1986)は北海道~九州としている。捕獲した個体以外にも事務室内で目撃しているので, 本園での分布は確かであろう。八木沼(前出)は“人家に普通な種で窓辺の日当たりのよい場所に出現するが, 目撃するのは雄の方が多い”と記しており, 捕獲したのはまさにこのような条件の場所であった。

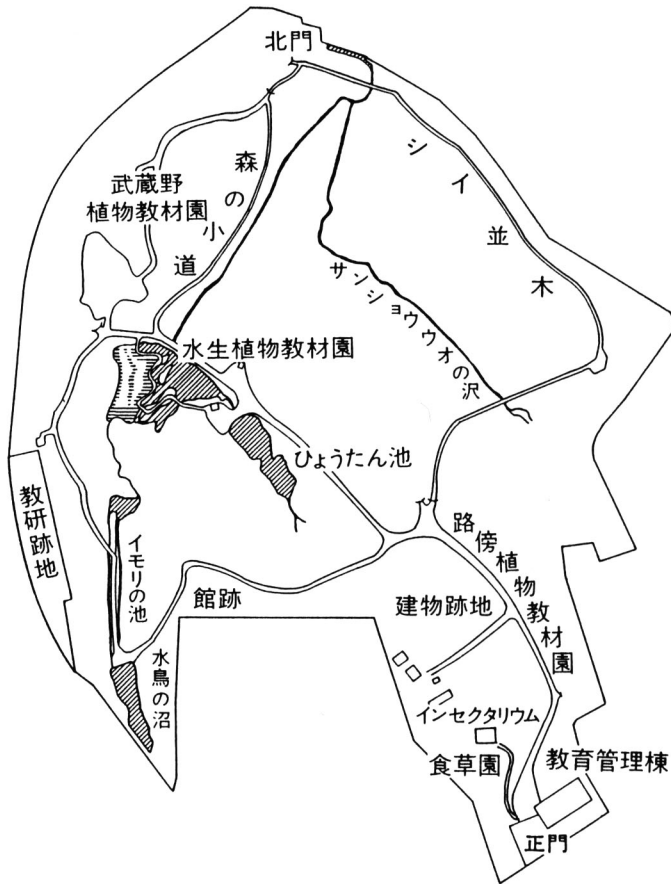


図1. 自然教育園概略図

Insecta 昆虫綱

Paramphientomum yumyum Enderlein ウロコチャタテ(嚙虫目 ウロコチャタテ科) (1990.6.27～11.1 水鳥の沼前)

本種は休憩所のベンチ前に設置されているテーブルがわりの岩石の上面や側面に群生しており、人が近づいたりするとかなり敏捷に動きまわる。このほか、個体数は少ないがインセクトarium内のコンクリート壁でも観察された。本州・九州に分布する普通種である(堤, 1965)。

Trigonotylus caelestialium Kirkaldy アカヒゲホソミドリメクラガメ(半翅目 メクラカメムシ科) (1990.9.22 研究室内) 友国雅章氏同定

本種は研究室内の筆者の机にいたのを捕獲したものであるが、この直前まで食草園で作業をしていたので、おそらく、ここで筆者の衣服に付いたものが運ばれてきたものと考えられる。

本種は国内では北海道～九州に分布する普通種で、平地や山地のイネ科植物の雑草間に多いという(宮本, 1965)。

Aderorrhinus crioceroides Roelofs チャイロチョッキリ(鞘翅目 オトシブミ科) (1990.6.6 三叉路付近) 大野正男氏同定

本種は三叉路に生育するアカガシ下の路上を歩行している個体を捕獲。成虫は5～6月に出現し、分布は本州・四国・九州である(中根, 1963a)。

Atrachya menetriesi Faldermann ウリハムシモドキ(鞘翅目 ハムシ科) (1990.11.8 食草園) 食草園の葉上にいた個体を捕獲。本種は広食性で多数の科にわたる植物を摂食し(大野, 1970)、蔬菜など多種類の植物を害するという(中根, 1963b)。

なお、本種は黒翅タイプの雄で、東京では比較的少産の型であり、本園では食草園に多く生育しているミツバヤクローバーなどで多発する可能性もあるという(大野正男氏のご教示による)。

国内での分布は北海道～九州である(中根, 1963b)。

2. 稀種の記録

(1) 昆虫類

Ceriagrion melanurum Selys キイトトンボ(蜻蛉目 イトトンボ科) (1990.7.14, 同7.15, 同7.24, 同8.12 水生植物教材園 以上守田洋氏)

前年よりも目撃記録が多く、個体数の増加、発生期間の延長がうかがえる。

Ceriagrion nipponicum Asahina ベニイトトンボ(蜻蛉目 イトトンボ科) (1990.7.14, 同7.15, 同7.29 水生植物教材園 以上守田洋氏)

守田氏によれば、上記の記録のほかにも数回目撃したとのことである。ここ2～3年では目撃記録が

多いほうである。

Rhyothemis fuliginosa Selys チョウトンボ (蜻蛉目 トンボ科) (1990.7.30~8.5 水生植物教材園 守田洋氏)

前年よりも早い時期に、しかも数日にわたって観察された。

Cryptotympana facialis facialis Walker クマゼミ (半翅目 セミ科) (1990.7.24 水生植物教材園 守田洋氏; 同7.26, 同8.2 食草園)

上記の記録のほかにも数回鳴き声が聞かれ、例年よりも飛来が多いように思える。

Papilio helenus Linnaeus モンキアゲハ (鱗翅目 アゲハチョウ科) (1990.7.25 武蔵野植物教材園) かなり新鮮な個体であった。食草園のカラスザンショウに産卵しているのが観察されていることから (久居, 1990), 本園での繁殖も十分に考えられる。

Narathura japonica Murray ムラサキシジミ (鱗翅目 シジミチョウ科) (1990.6.23 武蔵野植物教材園 矢野亮氏)

本種が今回のように6月に記録されたのはおそらく初めてであろう。これまでの目撃記録はいずれも秋~初冬であり、越冬地として本園を利用する個体が観察されていると考えられていた (久居, 1989)。しかし、今回の記録により稀ではあるが本園で繁殖している可能性もある。

食餌植物はコナラ・クヌギ・アラカシなどの新芽や若葉であり (福田他, 1984), これらは本園に豊富に生育している。

なお、本種の成虫は常緑樹の茂みの中で越冬することが知られており、白水 (1991) によれば“この成虫越冬の習性は熱帯~亜熱帯起源のチョウが暖帯の照葉樹林に進出した場合に、しばしば見られる現象”であるという。

Rapala arata Bremer トラフシジミ (鱗翅目 シジミチョウ科) (1990.8.1 イモリの池および水鳥の沼 守田洋氏)

守田氏によれば、同じ日に上記の場所で見られたが、これらは別々の個体らしかったとのことである。本種は夏季に水生植物教材園付近で吸蜜しているのがよく観察される。

Curetis acuta Moore ウラギンシジミ (鱗翅目 シジミチョウ科) (1990.7.7 ひょうたん池 守田洋氏; 同11.7 教育管理棟前; 同11.10; 食草園; 同12.1 水生植物教材園)

本種も秋季に目撃記録が多い。しかし、前年 (久居, 1990) に続き夏季にも観察されたことから、本園で繁殖している可能性もある。食餌植物はマメ科のフジ・ジャケツイバラ・クララ・クズなどである。

Libythea celtis Fuessly テングチョウ (鱗翅目 テングチョウ科) (1990.4.12 中央トイレ付近, 同4.25 建物跡地 以上矢野亮氏; 同4.13 食草園; 同7.24 建物跡地 守田洋氏)

本種はムラサキシジミ・ツマキチョウなどとともに関東では一度絶滅あるいは分布を縮小しその後最

近になって復活したと考えられているチョウである(福田, 1990)。しかし, 本園では個体数は少ないが絶えることなく発生を繰り返し, 毎年観察されている。

Aulacophora nigripennis Motschulsky クロウリハムシ(鞘翅目 ハムシ科) (1990.6.17, 同6.22 食草園)

目撃された個体はいずれも食草園のカラスウリの葉上にいたもので, 6.17の記録はカラスウリの葉を摂食していたものである。

(2) その他

Gekko japonicus Duméril et Bibron ニホンヤモリ(トカゲ目 ヤモリ科) (1990.2.8 現業舎裏倉庫)

本個体は頭胴長60mm, 全長100mmであった。本種は頭胴長50~60mm, 全長100~120mmといわれ(中村・上野, 1963; 千石, 1979), 本個体は成体と思われる。体長を計測した後, 捕獲場所に放逐した。

Butorides striatus amurensis Schrenck ササゴイ(コウノトリ目 サギ科) (1990.6.10 水生植物教材園 守田洋氏; 同8.25 水生植物教材園)

8.25の記録は水生植物教材園の北側のハンノキに止まっていた幼鳥を目撃したもので, 同所に居合わせた守田氏によって確認された。

Dendrocopos kizuki seebohmi Hargitt コゲラ(キツツキ目 キツツキ科) (1990.5.6 森の小道出入口付近 守田洋・坂本直樹氏)

スダジイの老木の樹洞で, 育雛中の個体が観察された。コゲラはここ数年毎年頻繁に観察され, 以前にも繁殖しているのが確認されている。

コゲラは本来森林性の野鳥で, 東京では西郊外の丘陵地や山地に生息している。それが10年程前から市街地に進出し繁殖するようになったといわれ(川内, 1988), 自然教育園でも通年にわたって観察され, 現在はほぼ留鳥化している。

引用文献

- 千国安之輔. 1989. 写真・日本クモ類大図鑑. 308pp. 偕成社, 東京.
- 福田晴男. 1990. 東京のチョウ. 昆虫と自然, 25(12): 10-15.
- 福田晴夫他. 1984. 原色日本蝶類生態図鑑(III). 373pp. 保育社, 大阪.
- 久居宣夫. 1989. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(2). 自然教育園報告, 20: 1-13.
- . 1990. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(3). 自然教育園報告, 21: 11-21.
- 川内博. 1988. 東京にやってきた森林性の野鳥たち. 私たちの自然, (314): 10-15. (日本鳥類保護連盟)
- 国立科学博物館附属自然教育園. 1984. 国立科学博物館附属自然教育園動植物目録. 118pp.
- 熊田憲一. 1990. 川崎市自然調査昆虫班より採集された土壌性クモ類の目録. 川崎市青少年科学館紀要, (1): 29-34.

- 宮本正一. 1965. メクラカメムシ科. 「原色昆虫大図鑑第3巻」(朝比奈正二郎他監修), 97-100. 北隆館, 東京.
- 中村健児・上野俊一. 1963. 原色日本両生爬虫類図鑑. 214pp. 保育社, 大阪.
- 中根猛彦. 1963a. オトシブミ科. 「原色昆虫大図鑑第2巻(甲虫篇)」, 353-356. 北隆館, 東京.
- . 1963b. ハムシ科. 「原色昆虫大図鑑第2巻(甲虫篇)」, 320-348. 北隆館, 東京.
- 大野正男. 1970. ハムシの生態(1). インセクタリウム, 7(7): 6-9. (東京動物園協会)
- 千石正一編. 1979. 原色両生・爬虫類. 206pp. 家の光協会, 東京.
- 白水隆. 1991. イシガケチョウ. インセクタリウム, 28(1): 12. (東京動物園協会)
- 堤千里. 1965. 嚙虫目. 「原色昆虫大図鑑第3巻」(朝比奈正二郎他監修), 65-66. 北隆館, 東京.
- 八木沼健夫. 1986. 原色日本クモ類図鑑. 305pp. 保育社, 大阪.